

酸性の米から弱アルカリ性のピロール米に変えませんか!

人体は元素で構成されているが、その中でも特にカルシウムは骨や歯に蓄えながら、常に血液を弱アルカリ性に保つ重要な役割を担っている。二木謙三博士は「酸性食品を食べる事によって血液のアルカリ度が不足すれば、アルカリを体内から補充しなければならないが、アルカリ度が足りていれば体内に蓄積される」と言われている。酸性の肉を食べても血液が酸性に傾かないのは、骨や歯を溶かしてアルカリ元素のカルシウムを補充する為だ。海外の骨粗鬆症の診療ガイドライン『骨粗鬆症、診断・予防・治療』では、砂糖や動物性食品はカルシウムを奪う骨泥棒とされており骨粗鬆症の予防の為にアルカリ性食品を摂取するよう言及している。超高齢者の多い地域は、カルシウムの多い土地である、という事が共通している。カルシウムの多い硬水を飲み、カルシウムの多い作物を食べている。日本は火山地帯の為に、カルシウムの少ない土地であり、カルシウムの少ない軟水だ。野菜にもカルシウムが少なく、米は酸性だ。食性から臼菌の割合(62.5%)

を考えると、米のpHの違いは、毎日食べる主食であるだけに大変に大きな差となってくる。玄米・菜食で酸性の肉・魚を排除しても、米が酸性であれば、食事全体では酸性になる。同じように玄米菜食を実行しても、欧米と日本での結果の現れ方が違うのは元素の含有率の違いであり、特にカルシウムの含有率には大きな違いがある。
◆ピロール米は、Ca・Mgを多く含んだ弱アルカリ性の米です。(B12を含有する)※30年以上のデータがあります。
◆ピロール米は、【全国米・食味分析鑑定コンクール・国際大会】で最高位のダイヤモンド褒章を受章しています。
 ◎土壌中に眠る藍藻を増殖させる事によって、Ca・Mg・亜鉛などを20~30%多く吸収した健康な作物に育ちます。玄米菜食を実践しても、米が酸性なら食事全体では酸性になるが、米がアルカリ性になるだけで食事全体ではアルカリ性になってしまう。⇒弱アルカリ性ピロール米は、健康に関心のある人達から、非常に注目されています!
◆どの専門書にも“米は酸性”としか書かれていません。

脳幹トレーニングは、免疫力回復の為の訓練です!

玄米食を実行しても、健康食品を飲んでも、癌が治る人と癌で死ぬ人がいる。⇒その違いは、脳幹にある。脳幹の事を、一般的には自然治癒力とか、免疫力と呼んでいるが、脳幹が正常に機能していれば、脳幹が病気を防いでくれる。脳幹は系統発生的に、最も古い脳であり、心臓を中心とした血液循環、血圧・体温・血糖・水分調節、呼吸、嚥下といった“生命活動の基本”を司る中枢で、“神経の伝導路”である。※自律神経など、全ての神経をコントロールする免疫力の司令塔である。東洋医学では針・指圧・刺絡療法など、ツボを刺激する事で自律神経を調節して、免疫力を上げる治療が行われているが、これは脳幹への刺激である。笑い療法・心肺停止の人に行うAEDなど、刺激の強弱が違うが、脳幹への刺激を行っている。人間は動物である。動物は、動く物と書かれるように、体を動かす事で脳幹が機能する仕組みになっている。だから人間という動物が、動かない生活を続けると、徐々に脳幹が機能しなくなり、病気を防ぐ事ができなくなる。これが動物の宿命なのだ。
●低体温・無表情・無感動・自律神経の失調等…これらは脳幹が弱った結果である。体に必要な問題はないが、感情表現が乏しく、活き活きとした表情の明るさ、瞳に輝きがない。姿勢が悪い。
●アレルギーは、食物が根本的な原因ではない。脳幹が弱っている為、良い物を食べたのか悪い

物を食べたのか、正しい判断ができなくなっているのだ。その証拠に、脳幹が鍛えられると、アレルギー症状が起きなくなってくる。●癌は、生活習慣病と言われている。生活習慣病は、生活習慣の中に原因があつて起きた病気だ。もっと具体的に言えば、人間と呼ばれる動物が、体を動かさない生活習慣を続けた結果、起きた病気であるという事だ。だから癌細胞も、脳幹が鍛えられて正常に働くようになれば、アポトーシスを引き起こして自滅するようになる。⇒天然ゴム製【オカヤマ脳幹クッション】は、家庭の中で簡単に脳幹を鍛える事ができるように開発された物です。



【オカヤマ脳幹クッション】
天然ゴム製、国内生産品
●サイズ 45cm×50cm ●重さ 2kg

株式会社 オカヤマ / 脳幹トレーニング研究所 岡山県苫田郡鏡野町竹田1110-1 定休日 / 土・日・祝日
 ☎0868-54-3161 ☎0868-54-4004 🌐http://www.horebore.cleans.jp/

●『ピロール農法』及び、健康情報誌『昔話に学ぶ健康法』を希望全員に無料進呈中!
 ●祝日に日の丸の国旗を印刷しているカレンダーを希望者全員に無料進呈中!

日本の教育を取り戻す

発見して伝えるのが歴史教師の役

○日露和親条約の教科書記述
 「この条約で、下田・箱館のほか長崎を加えた3港を開港し、国境については択捉島以南を日本領、得撫島以北をロシア領とし、樺太は両国人雑居の地として境界を定めないことなどが約定されている」

教師A そんな交渉が行われていたとは……。日露交渉の記述なんて教科書は素っ気ないですよ。

教師C よく見抜きましたね。占部 川路の能力の高さもありですが、一番は公平無私だからでしょう。手柄を立ててやろうとか、相手をへこましてやろうとかの邪念を払って交渉に臨んでいるから、相手の底意が見えるんですよ。

目なんですがね。

マリア・ルス号事件

教師B 先生は以前、本誌に副島種臣の外交について書かれていたですね。たしか清国との交渉に毅然と臨んで位負けしなかったという史実を取り上げられていたのを印象深く覚えています。

占部 そうでした。現在の日本外交があまりに情けないものから取り上げたのです。副島にはもう一つ、マリア・ルス号事件を解決した偉業がある。これも教科書で扱うことが少ない史実です。PTA役員 要点だけでも教えて頂けませんか。

占部 この事件は副島らによる人権外交とも呼ばれるもので、事の発端は明治五(一八七二)年六月、横浜港にペルー船籍のマリア・ルス号が船体修理のため寄港したときに始まります。実はこの船は、マカオから清国人苦力二百数十名を奴隷労働者として買い集め、密かにペルーに運ぶ途中でした。この寄港中に事件が起きます。マリア・ルス号での虐待に耐えかねて、一人の中国人が海に飛び込

んだのです。このとき、近くに停泊中のイギリス船が男を救出し、神奈川県庁に事情を報告して身柄を引き渡すのですが、ペルーの船長が虐待を否定したため男を先方に返してしまふ。これに対して、英米の代理公使から外務卿の副島にクレームが寄せられるのです。教師A 英米からクレームが出されたのは当然ですね。占部 ええ。そこで副島は、清国人苦力の人権を守る立場から、弱冠二十四歳の大江卓を神奈川県権令に任命し、さらに彼を特別裁判所の裁判長として事に当たらせるのです。大江は清国人に対する奴隷的拘束と虐待は認めないとの判決を下します。こうして苦力たちは無事保護され、日本に感謝して帰国しました。

国際仲裁裁判での対決

PTA役員 なるほど、マリア・ルス号事件とは、副島と大江のコンビが見事中国人を救ったという美談なんですね。占部 いいえ、この事件は中国人が解放されたことで一件落着きとは

ならなかった。ペルー政府は、翌六(一八七三)年に損害賠償を請求するとともに、日本外務省によって司法権の独立が侵害されたこと主張したため、国際仲裁裁判に持ち込まれることになるのです。教師B どうなったのですか。占部 明治八(一八七五)年、日本に損害賠償の責任なしとする判決が下されたことで、ようやく一連の紛争は解決を見ます。教師C 国際仲裁裁判所にまで持ち込まれたんですね。占部 ええ、そして勝ったんです。教師B 人権外交と言われる理由が分かりました。でも、今の中国ではこの史実を知る人はいないでしょうね。

占部 だから、なに憚ることなくこちらがどしどし授業で取り上げればいいのです。そのためにも、現場の授業を補強する材料を当欄にも折々に取り上げてみたいと考えているところです。二〇一八年は明治百五十年の節目の年でもありますから、「明治の精神」をテーマにするのもいいかもしれません。教師A これから新しい教育が推進されるわけですから、ぜひお願いしたいですね。